

生田長者穴横穴墓群(川崎市)

いくた ちょうじゃあなよこあなぼぐん

この左手の山に登って行く





東生田の自然遊歩道になっている





生田緑地の案内板もある



さて、この両サイドの木製階段沿いの斜面に横穴墓が展開している



左手の階段から右手の階段方向を見る/横穴墓が存在するのが見てとれる





説明板がある



生田長者穴横穴墓群

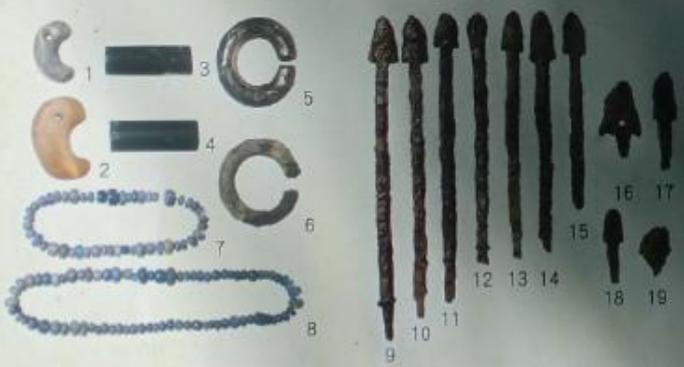
生田長者穴横穴墓群は、飯室山の北麓に築かれた横穴墓群です。この横穴墓群は江戸時代の地誌『新編武蔵風土記稿』にも「長者の穴」として紹介されており、古くから人々に知られていました。

昭和四十三年（一九六八年）、ここに宅地造成計画がもち上がったため、川崎市教育委員会では三度にわたって発掘調査を実施しました。その結果、三つの小さな谷の斜面に三〇基以上の横穴墓が群集して発見されました。これらの横穴墓は多摩丘陵の基盤層である飯室層と呼ばれる比較的硬い泥岩の地層に掘り込まれています。

これらの横穴墓は遺体を安置する玄室と玄室に通じる墓道である羨道からできており、羨道の前には墓前祭祀を行なうための前庭部が残っているものもあります。横穴墓の大きさは奥行約三〜六m、幅約一〜三mほどの規模で、平面形には四角形・台形・羽子板形などがあり、四角形が時代的に古く、羽子板形になるにしたがって新しくなると考えられています。発掘調査では埋葬された人の歯や骨のほか、副葬品である金環・勾玉・管玉・小玉などの装飾品や鉄鏃などの武器が発見されました。長者穴横穴墓群はこうした出土遺物や横穴墓の形態などの特徴から、七世紀に築造された横穴墓群で、この地域を治めていた豪族の一族の墓ではないかと考えられます。



生田長者穴横穴墓群の位置



(1・2 勾玉、3・4 管玉、5・6 金環、7・8 小玉、9～19 鉄鏃)

出土した副葬品

次に、右手の階段から左手の階段方向を見る









アップで見る









上から両階段とその間の谷を見る



さて、ここから上をみると急な階段が続いており、枳形山へと登って行ける



参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/kanagawa/kawasaki/tyozya.html>

<http://www.city.kawasaki.jp/88/88bunka/home/top/stop/dokuhon/t0612.htm>

<http://blogs.yahoo.co.jp/delpail/2305146.html>

<http://kofun.info/kofun/1231>

